

② 実施調査の概要

利用者の利用実態・改善要望等を把握するとともに、非利用者からみた問題点等を把握するため、以下の3調査を実施した。

調査名	調査対象	実施目的
沿線居住者対象アンケート調査	沿線自治会会員	沿線居住者（※川辺堀之内路線を利用していない方も含む）を対象とし、日頃の外出状況、川辺堀之内路線の利用状況、利用していない理由、改善要望等を把握する。
利用者対象アンケート調査	川辺堀之内路線利用者	利用者を対象とし、利用状況、川辺堀之内路線運行開始前の移動手段、利用満足度、改善要望等を把握する。
利用者OD調査	川辺堀之内路線利用者	利用区間を把握する。

各調査の実施概要を以下に示す。

②-1 沿線居住者対象アンケート調査

調査対象	沿線自治会会員（沿線自治会の内、比較的会員数の多い豊田第一自治会及び川辺堀之内自治会を対象とした）
調査方法	対象自治会にて会員に配布・回収 ○配布数 1234 票（※各世帯に最大2票配布） ○回収数 780 票（回収率63.2%）
調査期間	平成21年11月上旬～下旬
調査内容	○回答者属性（年齢、性別、居住地、世帯構成、職業、運転免許有無、自由に利用できる自動車等の有無、補助具利用有無、利用する自宅近くのバス停、バス運賃の支払い方法） ○日頃の外出状況（頻度、目的、交通手段） ○川辺堀之内路線の認知度 ○川辺堀之内路線の利用状況（目的、時間帯、区間、頻度） ○川辺堀之内路線を利用しない理由（※非利用者のみ） ○川辺堀之内路線の運行内容について（問題点） ○川辺堀之内路線の運行による生活の変化 ○自由意見（改善要望等）

②-2 利用者対象アンケート調査

調査対象	調査期間内の川辺堀之内路線利用者
調査方法	川辺堀之内路線車内にアンケート票を設置し、利用者に回答を依頼。回収は「郵送」「車内に設置した回収箱への投函」「運転士への手渡し」のいずれかにて行った。 ※平日休日各1日のみ、配布員が乗車し利用者への直接配布を実施した。 ○回収数 170 票
調査期間	平成 21 年 11 月 10 日（火）～25 日（水） （配布員乗車：11 月 10 日（火）、11 月 21 日（土））
調査内容	○回答者属性（年齢、性別、居住地、世帯構成、職業、運転免許有無、自由に利用できる自動車等の有無、補助具利用有無、利用する自宅近くのバス停） ○アンケート回答日の利用状況（時間帯、目的、区間、運賃支払い方法、鉄道・他のバス路線への乗り継ぎ有無） ○川辺堀之内路線運行開始前の移動手段 ○川辺堀之内路線の利用頻度 ○川辺堀之内路線の運行サービス満足度 ○川辺堀之内路線の運行による生活の変化 ○自由意見（改善要望等）



図 2 アンケート票及び回収箱の車内設置状況

②-3 利用者OD調査

調査対象	調査日の川辺堀之内路線利用者 ○当日利用者数 149名
調査方法	○バス車内に調査員を2名配置する。 ○出発地においてあらかじめ数枚の調査票に起点の番号（下図調査票では「1 高幡不動駅 発」「2 豊田駅南口 発」のいずれか）に○を付け、出発時刻を記入しておく。 ○バス停に乗客がいることが確認されたら、調査員は調査票の「乗車バス停」番号に○を付け、調査票を乗客に渡す。その際、降車時に回収する旨を伝える。 ○乗客の降車時に調査票を回収し、「降車バス停」番号に○を付ける。 ○調査員の判断で、回収した調査票に「性別」「およその年齢」を記入する。（※混雑時間帯等、利用者が多く記入が困難な時間帯は省略可とする）
調査期間	平成21年11月10日（火） 天候：晴れ （全16便）
調査内容	○利用区間 ○利用者属性（性別、およその年齢）

川辺堀之内路線乗降調査 調査票			
川辺堀之内路線をご利用の皆様が、どこで乗車し、どこで降車したのかを把握するための調査です。この調査票は、降車時に腕章をした調査員に渡してください。 ご協力をお願いします。			
日野市／京王電鉄バス			
調査日：平成21年11月10日			
1	高幡不動駅 発 （出発時刻： _____）		
2	豊田駅南口 発 （出発時刻： _____）		
乗車バス停		降車バス停	
1	高幡不動駅	1	高幡不動駅
2	南平	2	南平
3	高幡橋西	3	高幡橋西
4	駒形公園	4	駒形公園
5	川辺堀之内	5	川辺堀之内
6	日野市民プール	6	日野市民プール
7	堀之内緑道	7	堀之内緑道
8	東豊田一丁目	8	東豊田一丁目
9	一番橋西	9	一番橋西
10	第二小学校入口	10	第二小学校入口
11	豊田一丁目	11	豊田一丁目
12	豊田駅南入口	12	豊田駅南入口
13	豊田駅南口	13	豊田駅南口
性別（ 男性 女性 ）			
年代（ 学生 学生・高齢者以外 高齢者 ）			

図 3 乗降調査 調査票

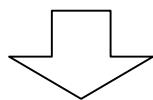
③ 調査結果

③-1 アンケート調査

1 回答者属性

項目	沿線居住者 対象調査	利用者 対象調査	【参考】	
			利用者 OD調査 (※外見で判断)	H17 国勢調査 (日野市人口) 他
60歳以上の割合	40.1%	71.2%	65.8%	27.4%
女性の割合	57.1%	75.3%	80.5%	48.6%
一人暮らしの割合	3.1%	15.9%	—	19.3%
運転免許保有率	75.9%	41.2%	—	※55.9%

※運転免許保有率は「警視庁の統計（平成20年）」より「運転免許保有者（全種）
÷東京都総人口」にて算出した。



■沿線居住者対象調査について

- ・自治会による配布・回収であったことから、高齢者がやや多く、一人暮らしの割合が少ない。一方で、運転免許保有率は都の平均よりも高い。

⇒バスへの関心が高い人だけでなく、日頃自動車を利用している人など、沿線に住む幅広い層から回答が得られていると考えられる。

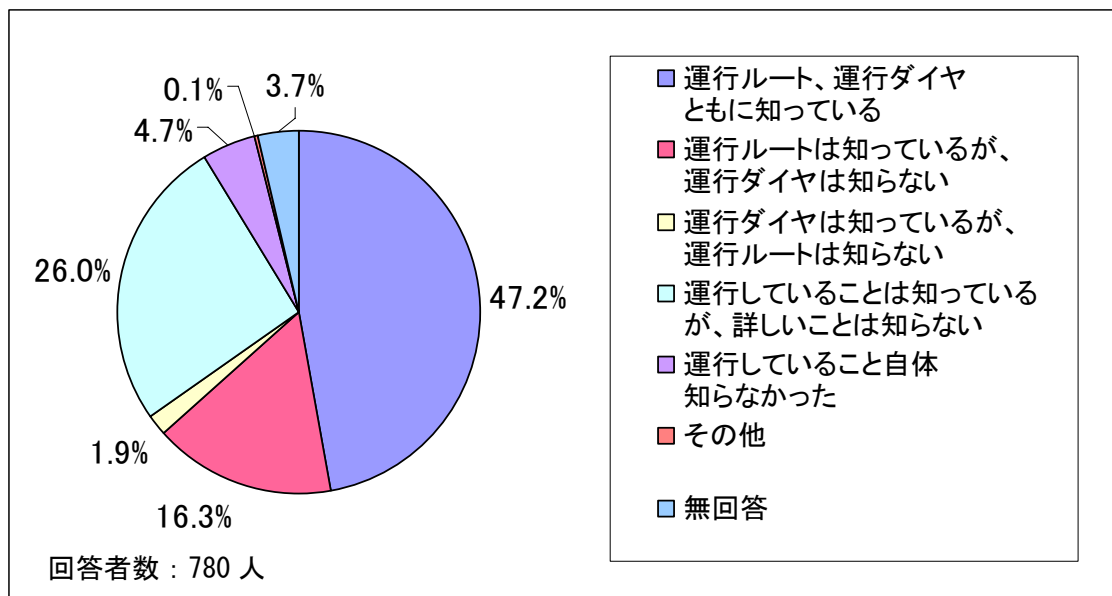
■利用者対象調査について

- ・回答者が高齢者と女性に偏っている。しかし、利用者OD調査時に実測した結果でも同様の傾向がみられている。

⇒利用者OD調査からみても利用者層が高齢者と女性に偏っているため、利用者全体からバランス良く回答が得られていると考えられる。

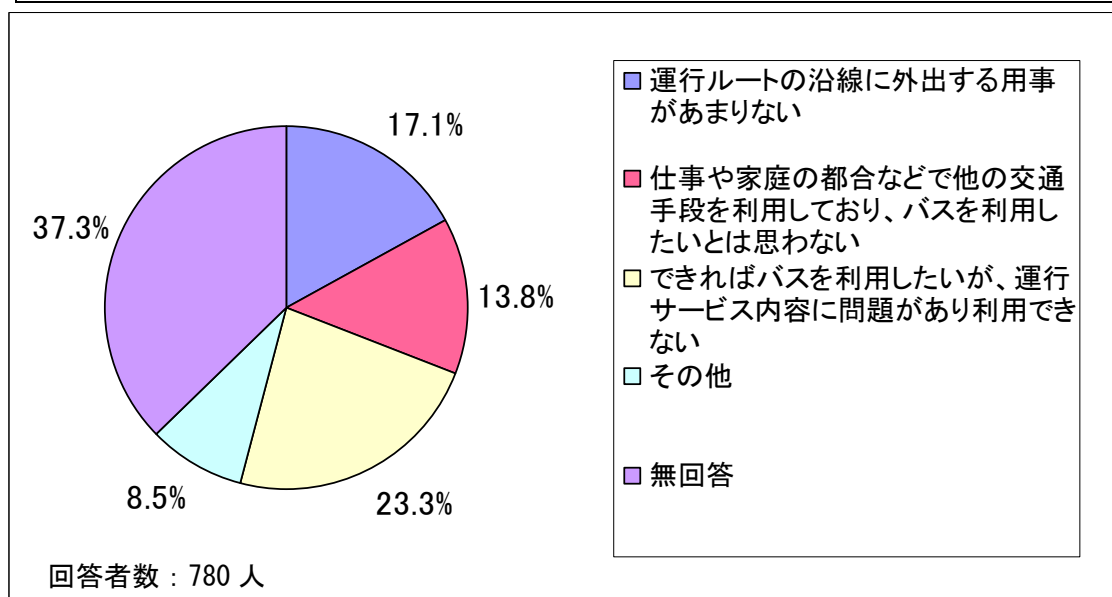
2 川辺堀之内路線の認知状況（沿線居住者対象調査より）

運行ルートとダイヤをともに知っており、いつでも利用できる状況にある人が47%であった。その一方で運行自体を知らない人と詳細を知らない人が合わせて31%であり、さらなるPRの必要性が伺える。



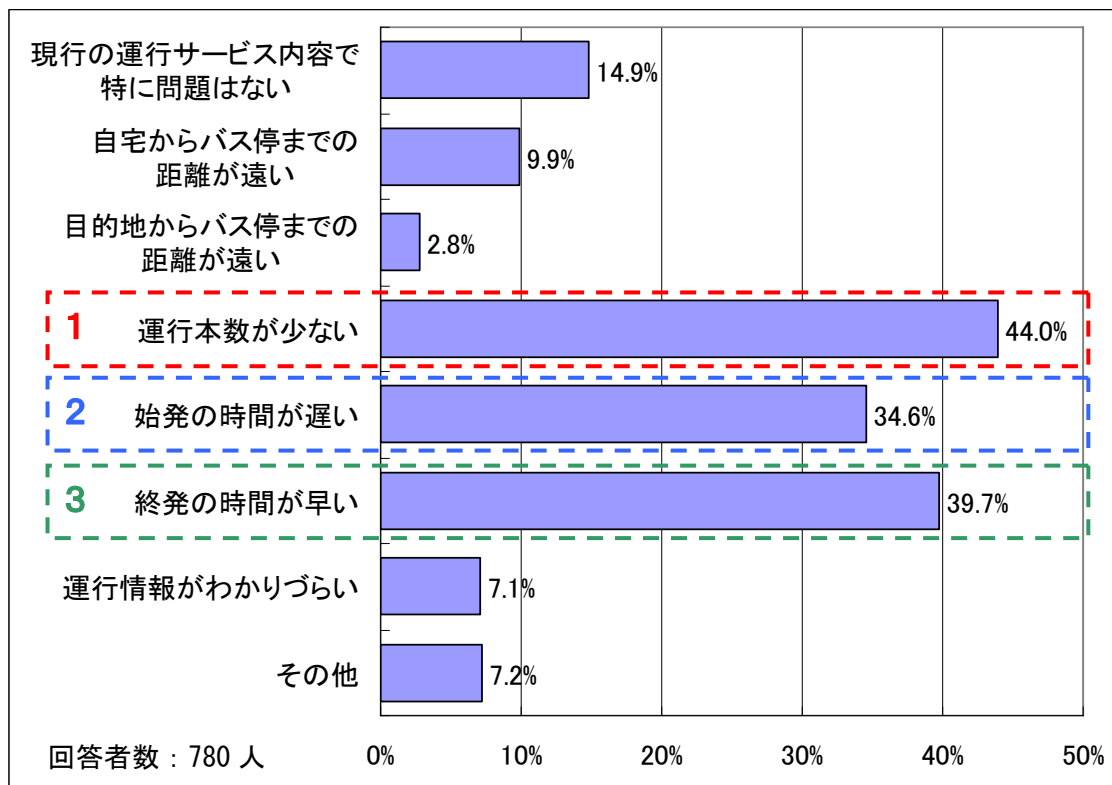
3 川辺堀之内路線を利用しない理由（沿線居住者対象調査より）

利用していない人のうち、「用事がない」「他の手段がある」ため利用しない人が31%（無回答を除くと49%）を占める。一方で「できればバスを利用したい」と考えている人が23%（無回答を除くと37%）おり、運行サービス改善による利用者増の可能性が伺える。

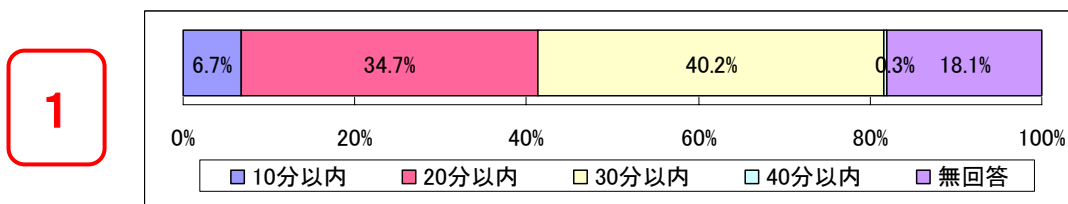


4 川辺堀之内路線の運行サービスについて（沿線居住者対象調査より）

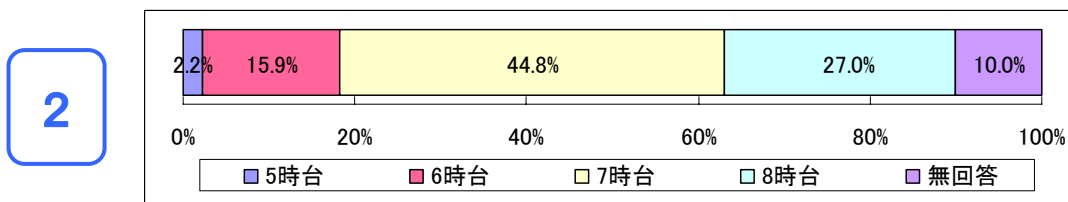
運行本数及び始発・終発時間に問題を感じている人が多い。



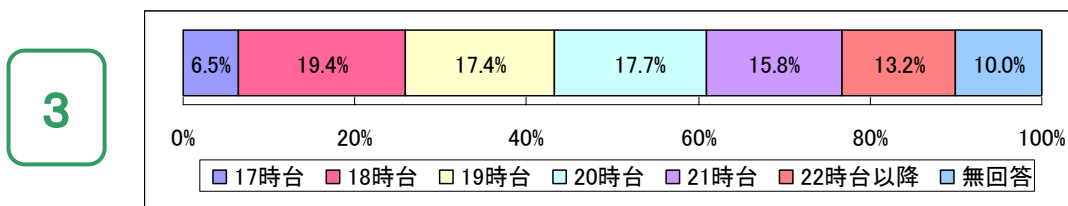
■何分間隔なら利用したいか（回答者数：343人）



■何時台から運行されれば利用したいか（回答者数：270人）



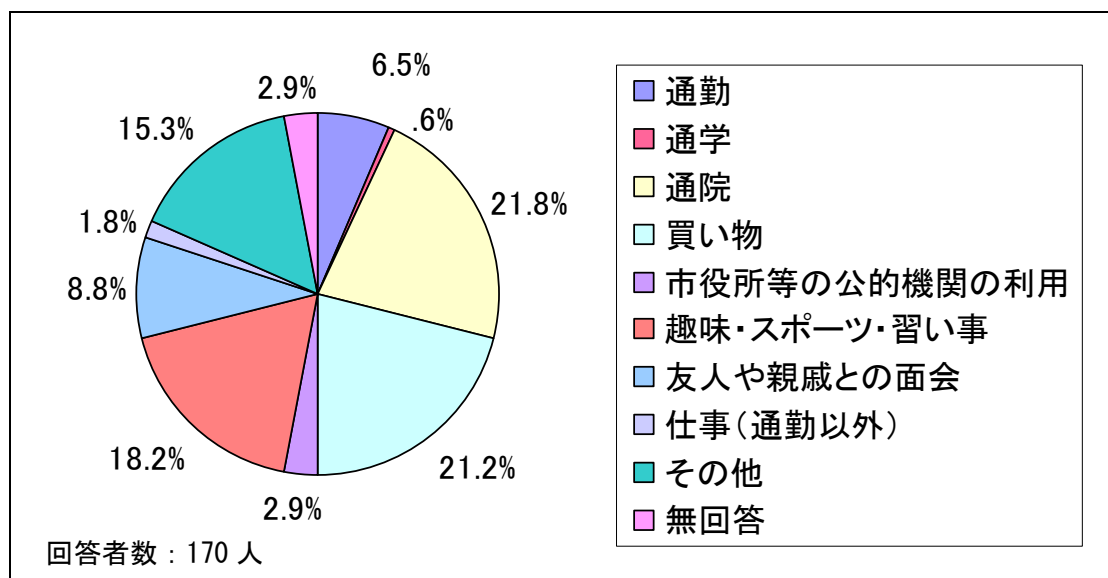
■何時台まで運行されれば利用したいか（回答者数：310人）



5 川辺堀之内路線の利用状況（利用者対象調査より）

■利用目的

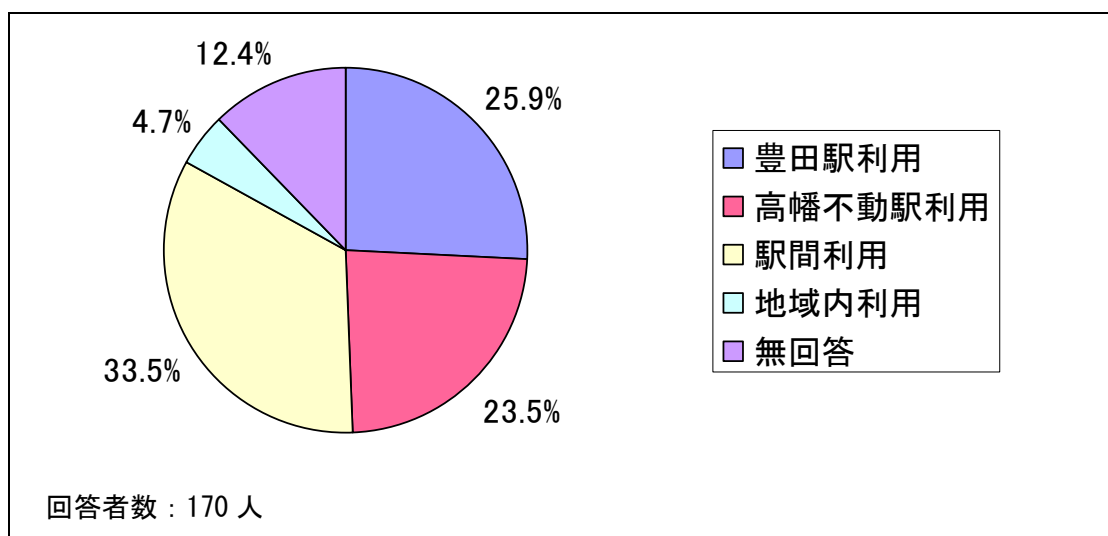
利用目的については、通院（22%）、買い物（21%）、趣味等（18%）が多く、この3つで61%を占める。



■利用区間

高幡不動駅と豊田駅の駅間利用が最も多く、34%を占める。次いで豊田駅南口への利用者が26%、高幡不動駅への利用者が24%（※ともに逆方向の利用者を含む）であり、駅に関連する利用が大半を占めている。

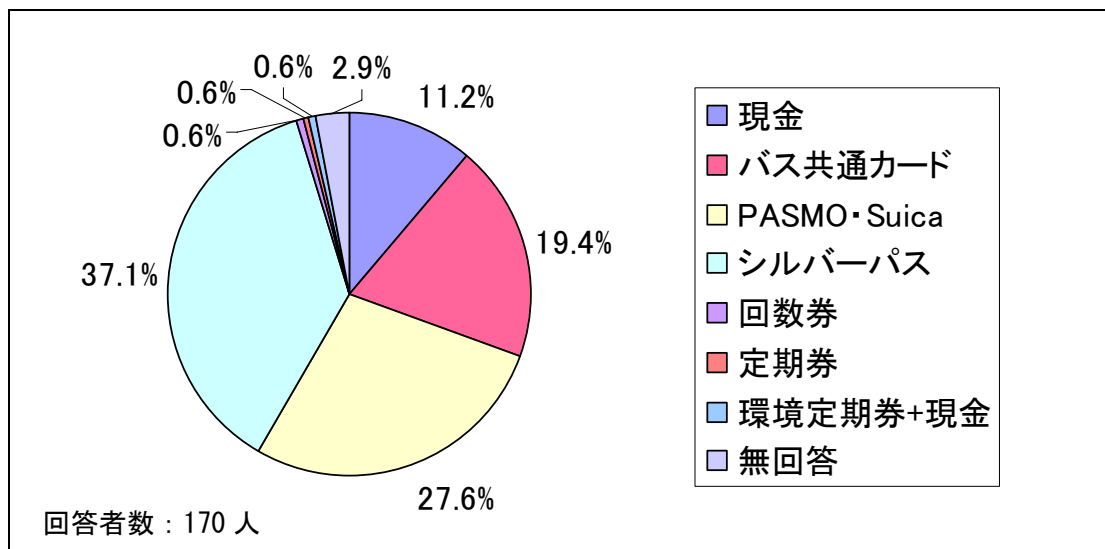
なお、駅等で鉄道またはバスに乗り継ぎ利用したのは54%であった。



■運賃支払い方法

運賃支払い方法ではシルバーパスが37%で最も多い。

なお、沿線居住者対象調査では「バス利用時の主な運賃支払い方法」について設問したが、シルバーパス利用者の割合は5%であった。

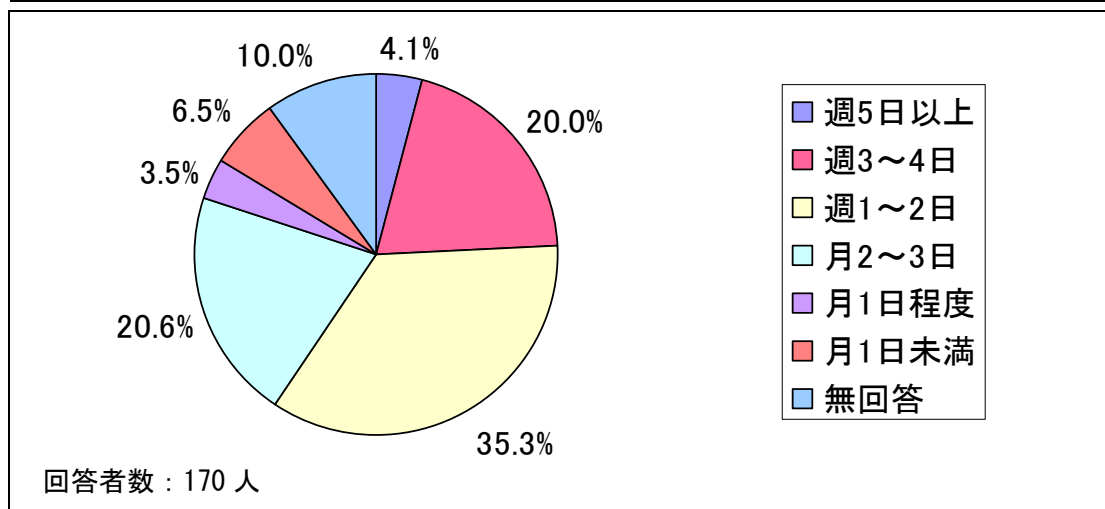


■利用頻度

利用頻度は週に1~2日が最も多く35%、次に月に2~3日が21%となっている。

なお、沿線居住者対象調査においても利用者（780人中313人）に対し同じ設問をしたが、「週に1~2日」以上の割合は27%であり、利用者対象調査の集計結果（「週に1~2日」以上の割合は59%）よりも低頻度となっている。

このことから、利用者対象調査には比較的よく利用する人からの回答が多かったものと考えられる。

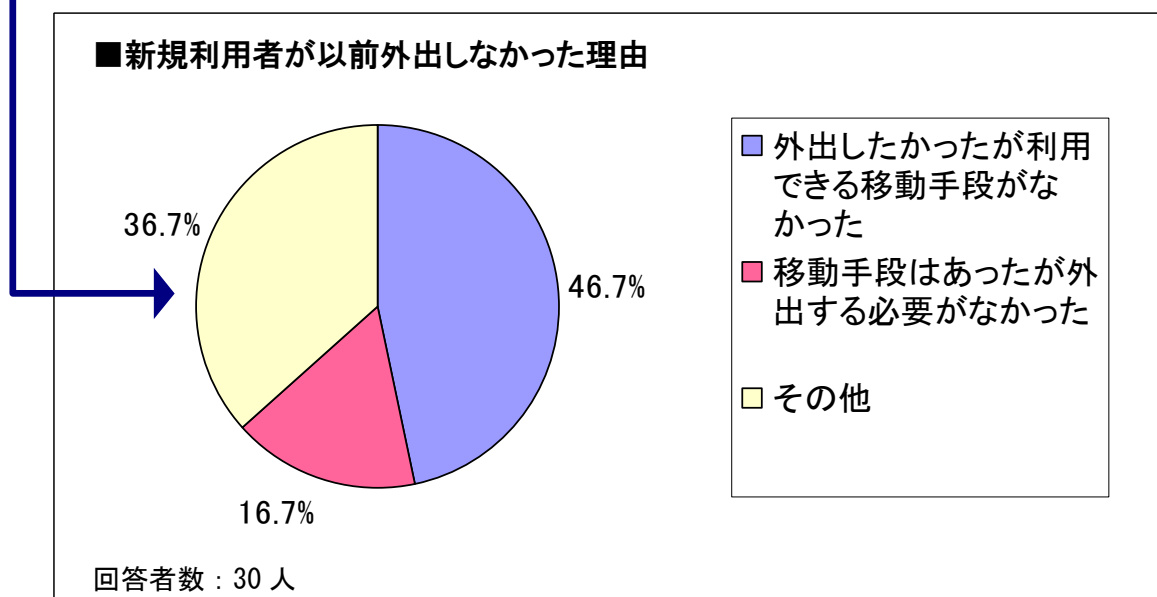
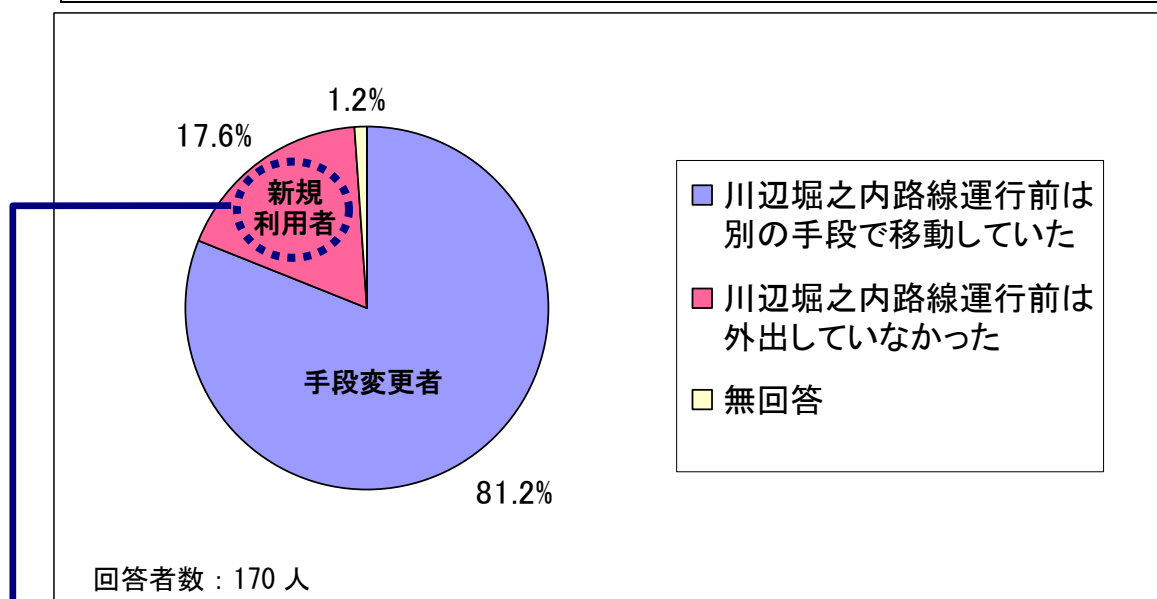


6 川辺堀之内路線運行開始前の移動手段（利用者対象調査より）

回答した外出先への移動について、「川辺堀之内路線運行開始前は別の手段で移動していた（＝手段変更者）」が81%、「運行開始前は外出していなかった（＝新規利用者）」が18%であった。

なお、手段変更者が運行開始前に主に利用していたのは、鉄道28%、路線バス（※ミニバス以外）27%、ミニバス23%、自転車23%である。

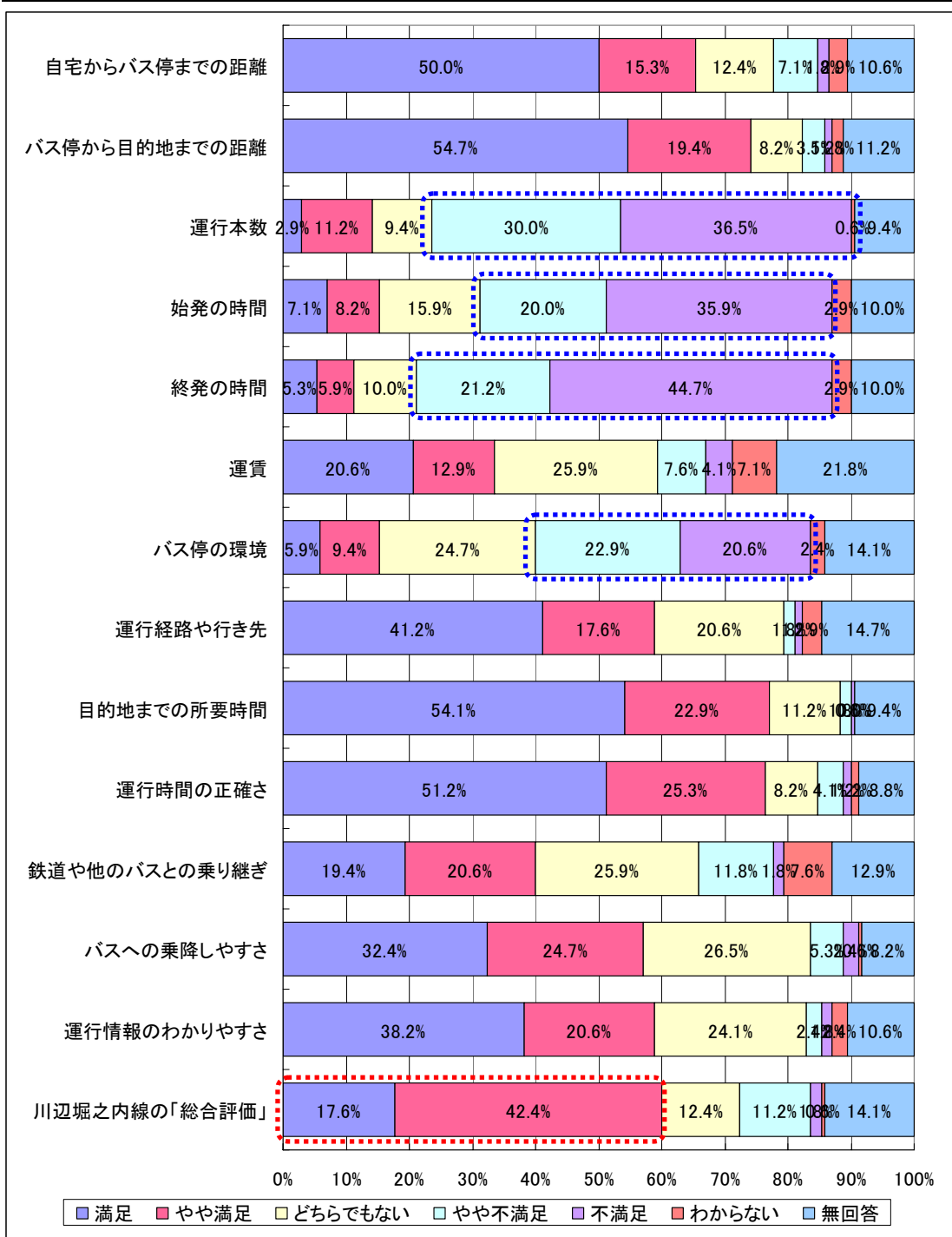
また、新規利用者の48%は「以前も外出したかったが移動手段がなかった」と回答している。



7 川辺堀之内路線の運行サービス満足度（利用者対象調査より）

総合評価では満足率（「満足」と「やや満足」の合計の割合）が60%を占め、多くの利用者に満足されている状況が伺える。

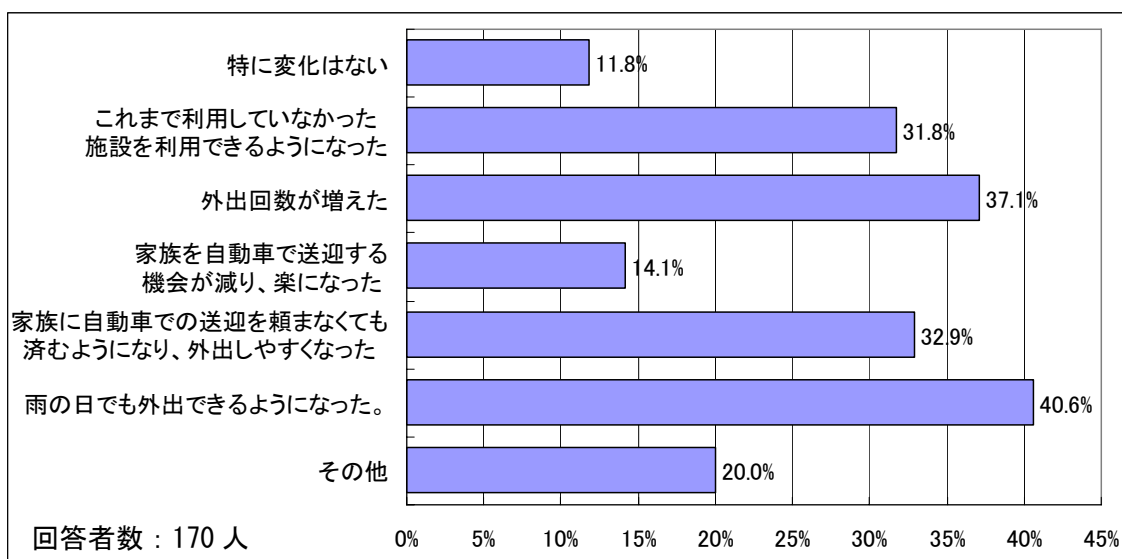
一方で、項目別にみると「運行本数」「始発の時間」「終発の時間」「バス停の環境」で満足率が不満足率（「不満足」と「やや不満足」の合計の割合）を下回っている。



回答者数：170人

8 川辺堀之内路線の運行開始による生活の変化（利用者対象調査より）

「雨の日でも外出できるようになった」が41%で最も多い。「外出回数が増えた」37%、「家族への送迎依頼が不要となり外出しやすくなった」33%と続いている。川辺堀之内路線の運行開始が、多くの移動制約者の外出機会増加に寄与している状況が伺える。



③-2 利用者OD調査

1 利用区間

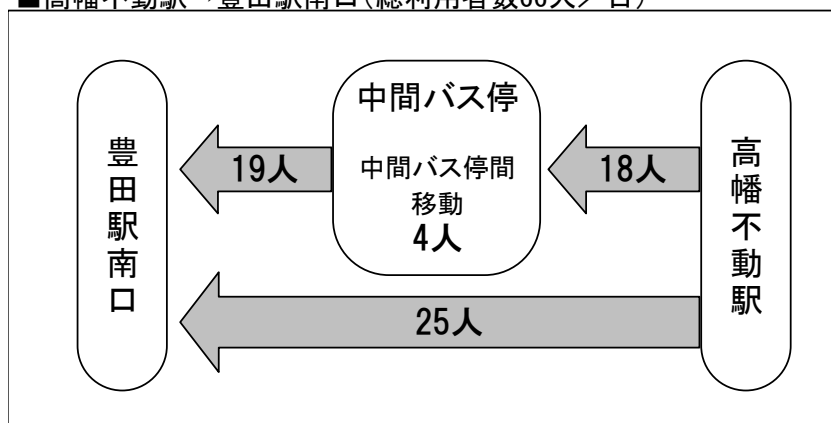
調査当日、1日の利用者数は149人で、1便あたりに換算すると9.3人である。方面による偏りが若干みられ、豊田駅南口行きが66人/日、高幡不動駅行きが83人/日であった。

利用区間で最も多いのは路線の中間に位置する各バス停から高幡不動駅への移動(37人/日)で、この区間の利用者数は逆方向(高幡不動駅から中間バス停)の移動(18人/日)の2倍となっている。

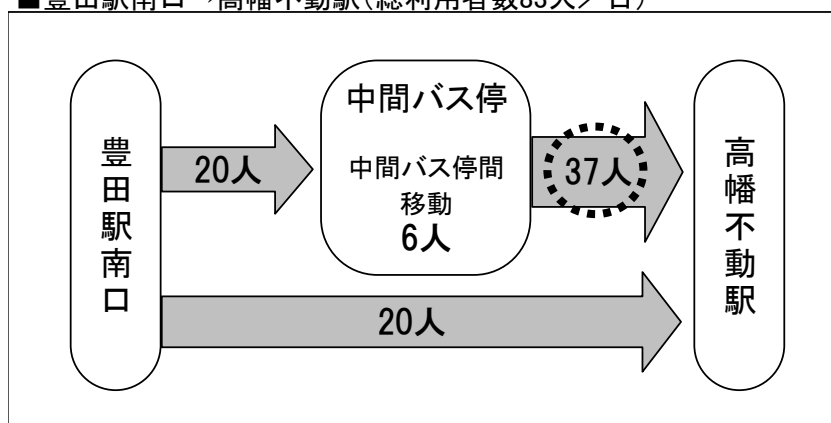
次に多かったのが高幡不動駅から豊田駅南口への移動(25人/日)で、特に始発便(高幡不動駅発9:05)においてこの移動が多い(9人/便)。また、逆方向の豊田駅南口から高幡不動駅への移動も比較的多い(20人/日)。

以上のように豊田駅または高幡不動駅を起終点とする移動が大半を占め、中間バス停間の移動者は両方向を合計しても10人/日と少ない状況であった。

■高幡不動駅→豊田駅南口(総利用者数66人/日)



■豊田駅南口→高幡不動駅(総利用者数83人/日)



※中間バス停:南平～豊田駅南入口間のバス停

図 4 川辺堀之内路線 区間別日利用者数

2 バス停別利用者数

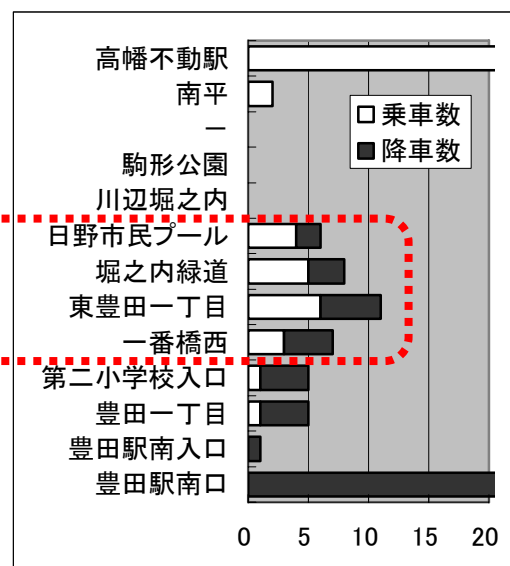
豊田駅または高幡不動駅を起終点とする移動が大半を占めることから、この2バス停の利用者数が圧倒的に多い。

中間に位置するバス停の中では、日野市民プール～一番橋西間の4バス停の利用者が比較的多く、最も多いのは東豊田一丁目の26人/日（両方向合計）であった。

■高幡不動駅→豊田駅南口

バス停名	乗降者数	
	乗車数	降車数
高幡不動駅	44	—
南平	2	0
—	0	0
駒形公園	0	0
川辺堀之内	0	0
日野市民プール	4	2
堀之内緑道	5	3
東豊田一丁目	6	5
一番橋西	3	4
第二小学校入口	1	4
豊田一丁目	1	4
豊田駅南入口	0	1
豊田駅南口	—	43
合計	66	66

日乗降者数(人/日)



■豊田駅南口→高幡不動駅

バス停名	乗降者数	
	乗車数	降車数
豊田駅南口	40	—
豊田駅南入口	2	0
豊田一丁目	6	1
第二小学校入口	3	0
一番橋西	11	6
東豊田一丁目	8	7
堀之内緑道	7	4
日野市民プール	4	5
川辺堀之内	0	0
駒形公園	1	0
高幡橋西	1	2
南平	0	1
高幡不動駅	—	57
合計	83	83

日乗降者数(人/日)

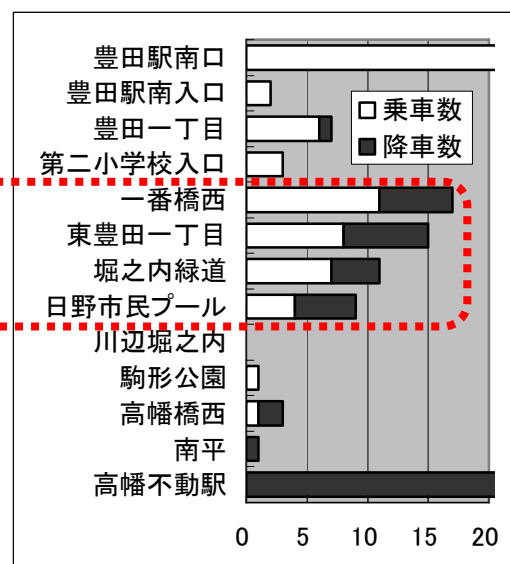


図 5 川辺堀之内路線 バス停別利用者数

3 利用者の年齢・性別

本調査ではおよその年齢及び性別を調査員が判断し記録した。以下はその集計結果を示したものである。

高齢者の割合が高く、全体の65.8%を占める。逆に学生は少なく、全体の4.7%に留まる。

女性の割合が高く、全体の80.5%を占める。高齢者女性が全体の半数以上を占める状況となっている。

年齢	学生		学生・高齢者以外		高齢者		合計
	男性	女性	男性	女性	男性	女性	
日利用者数	3	4	6	38	20	78	149

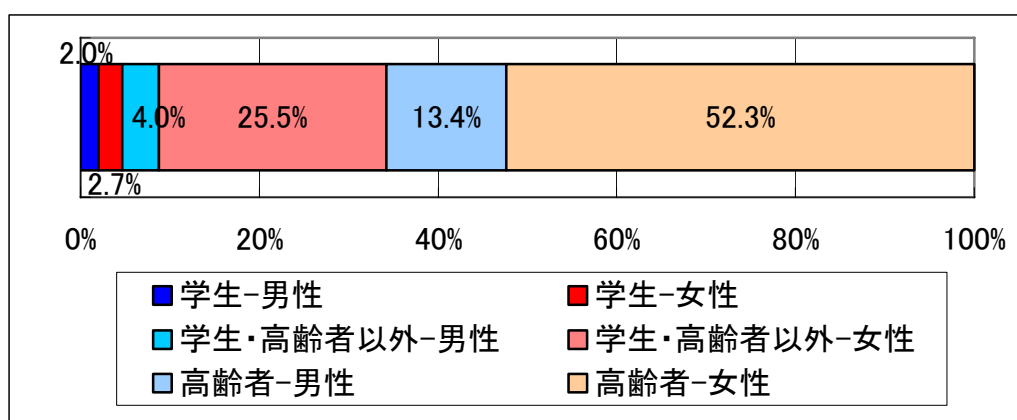


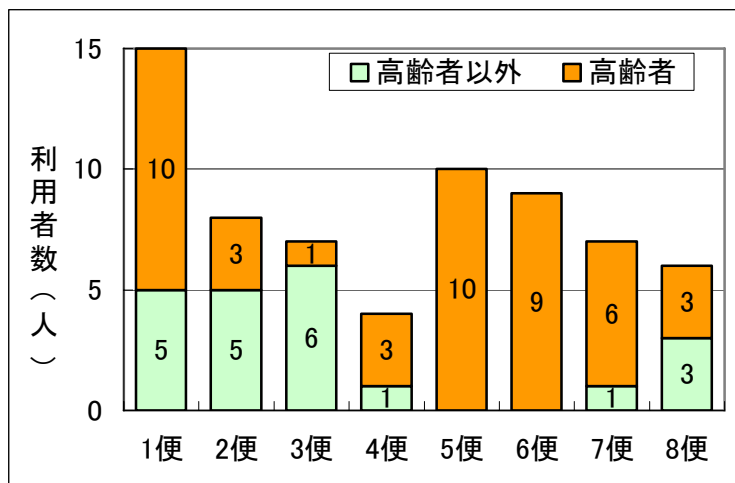
図 6 川辺堀之内路線 利用者の年齢・性別

4 利用者数時間変動

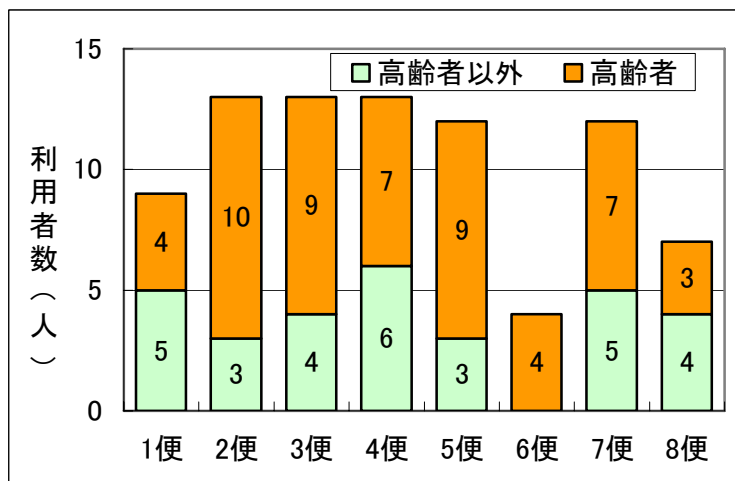
1便あたりの利用者数は最大15人であり、豊田駅南口行き始発便で記録されている。この便では15人中9人が全区間利用者であることも特徴的である。

この便を除けば、豊田駅南口行きは4人～10人（7便平均7.3人）、高幡不動駅行きは4人～13人（8便平均10.4人）で推移している。

年齢別には高齢者の利用が総じて多く、特に午後の便では割合が高い。



高幡不動駅→豊田駅南口



豊田駅南口→高幡不動駅

図 7 川辺堀之内路線 便別利用者数

③-3 まとめ

調査結果より、以下の点を読み取ることができた。

- 沿線地域から2駅への利用だけでなく、2駅間の利用も比較的多く、地域連携強化への寄与が期待される。
- 自動車等の運転ができない高齢者の日中の移動手段として活用されており、利用者の3割以上が「外出回数が増えた」と回答している。
- 利用者の満足度は高く、多くの人が運行継続を望んでいる。
- しかし、沿線居住者の3割は「いつ」「どこを」運行しているのかわからず、利用できない状況にある。
- 運行サービスの問題点として「運行本数の少なさ」「始発の遅さ」「終発の早さ」が挙げられており、この点については利用者の満足度も低い。

これらの点を踏まえ、今後見直し方策を検討し、評価調査の成果とする。

以上